

R5教育庁による一次評価

大項目	中項目	確認項目	評価水準	配点	評価 水準を上回る 2点／概ね水準どおり 1点／水準を下回る 0点				
					2点	1点	0点	評価理由	
管理状況	適切な管理の履行	協定や事業計画に沿って適切に管理が行われているか							
		施設・設備の保守点検	設備保守点検	点検表の作成(開館日)	× 1		1		計画どおり実施した。
			維持・保全	施設の修繕等の随時実施	× 2		2		早期修繕が必要なものについて教育庁と適宜協議をし、効果的に対応した。
		清掃	日常清掃、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のための消毒作業	都民対応部分の清掃(開館日) 職員や都民が触れる場所を1時間に1回消毒	× 1	2			新型コロナウイルス感染症5類移行後も都民が手の触れやすい場所は1時間に1回消毒を実施した。
			樹木保護等	草刈り(年2回以上) 枝の剪定(年3回以上)	× 1		1		降雪時に折れた枝や危険個所の整備等、迅速に対応した。
		受付・管理業務	施設警備	通年(年末年始を除く) 施設・巡回の実施	× 1		1		計画どおり実施した。
			受付業務	来館者受付、受付周辺の点検(開館日)	× 1		1		計画どおり実施した。
			入館者への対策	マスク着用・アルコールによる手指消毒要請 入館時の検温 密を避けた入場制限の実施 東京版新型コロナ見守りサービスの案内	× 1		1		新型コロナウイルス感染症2類時は徹底した感染拡大防止策を講じ、5類移行後も換気の徹底やアルコール消毒液の設置等、基本的な感染予防対策は継続した。
			出土品管理	管理表の作成	× 1		1		独自のデータベースを用い効率的な管理を行った。
			人員配置、人材育成	考古学の専門知識を有する職員を2名以上配置 専門性向上等のための研修の実施(年1回)	× 2		2		経験があり専門知識の豊富な学芸員を3名配置し、利用者に満足いただける企画や事業を実施した。また調査研究員の育成及び技術の継承を研修により着実に行った。
	安全性の確保	施設の安全性は確保されているか							
			施設・設備の安全性の確保	消防設備点検(年1回)	× 1		1		計画どおり実施した。
			防災・防犯への配慮	消防訓練実施(年1回) 消防設備点検(年1回)	× 1		1		計画どおり実施した。
			緊急時対策	緊急対応訓練実施(年1回) 発生時のマニュアル整備	× 1		1		計画どおり実施した。
			施設・設備管理に関する書類等の管理	点検表の作成(開館日)	× 1		1		各種点検表等が作成され適切に管理されていた。
			事故への対応	施設利用者に影響が生ずる事故等が発生しなかったか 事故等が起きた際の対応や都への報告が適正であったか	× 1		1		事故の発生はなかった。
	法令等の遵守	個人情報保護、報告等は適切に行われているか							
			個人情報保護、情報公開の取組	内部規定の策定 研修(年1回)	× 1		1		個人情報保護研修を実施した。
			公文書の管理	規程の策定、管理状況の確認(年1回)	× 1		1		規定に基づき管理されていた。
			東京都サイバーセキュリティ対策基準の履行、利用記録等各種情報の管理	保管場所の施錠 データアクセスのID制御の実施	× 1		1		ファイルサーバーについてファイアーウォールによるセキュリティ確保と、保管される情報種別のアクセス制限を適切に実施した。
			各種法令等の遵守	研修の実施(年1回) 業務に必要とされる関係法令遵守体制の整備	× 1		1		コンプライアンス・人権問題研修を実施した。
			労働環境確保への取組	社会保険労務士等の外部の専門家によるチェック(月1回)	× 1		1		法令等に基づき適切に実施した。
			協定等に基づく都への報告	迅速かつ遺漏のない報告・連絡	× 1		1		地震発生時は速やかに館内点検を行い都に報告をする等迅速に対応を行った。
	適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか							
			経営状況(安定的な運営)	収支状況の均衡性	× 1		1		健全な財政状況である。
			経理処理 経理・現金に関する書類等の管理	経理の明確な区分 帳簿、関係書類の整備、保存(指定期間終了後5年間)	× 1		1		2回立入検査を行ったが適正に処理されていた。
			都有財産(物品など)の管理	保全物品整理簿の整備 不適格品、亡失品等の報告	× 1		1		帳簿調査を行ったが適正に処理されていた。

大項目	中項目	確認項目	評価水準	配点	評価 水準を上回る 2点／概ね水準どおり 1点／水準を下回る 0点				
					2点	1点	0点	評価理由	
事業効果	事業の取組・サービス向上	求められる水準のサービスが提供されているか							
		年間事業	公開事業 (環境の変化など外部要因を考慮)	常設展示 復元住居での火焚き(年150日)	× 1		1		展示ホール利用者は昨年度に続き2万人を超えた(584人増)。復元住居の保全のため188日火焚きを行った。年間1万4千人の利用者に復元住居を見学いただけた。
			資料貸出	貸出状況等の確認(貸出簿の作成) 遺構写真等のデジタル化	× 1		1		貸出簿を作成し適切に貸出業務を行った。
		企画事業等	企画内容 (企画の充実度、豊富さ)	イベントの見直し 新規事業	× 2	4			「砦打ちによる糸作り(大人向け)」や「お子さま考古学教室」など4つの新規事業を行った。また、自主事業と連携した取組として、大学生等を対象にインターンシップを実施した。
			積極的な広報・PR	HPの更新(月1回) デジタル広報の充実	× 1		1		令和5年度企画展示「多摩新街遺跡切抜帖―新聞にのった遺跡たち―」のウェブサイトを著作権に配慮しつつ開設した。
			サービス向上に向けた創意工夫	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を施した施策 アンケートの要望に応えたグッズ設置	× 2	4			縄文服コーナーに小道具(打製石器を模した斧や弓矢)を用意し充実を図るとともに、体験コーナーパネルに英語訳を追加し多言語化を推進するなどの取組を実施した。また、車椅子利用者対応トイレにオストメイト対応設備を設置し、バリアフリー化を推進するなど、利用者の声を迅速に反映した積極的なサービスの向上に努めている。
	利用の状況	求められる水準の利用状況となっているか							
			事業企画の成果	企画展示の成果 都事業との連携	× 2	4			企画展示として、「多摩新街遺跡切抜帖―新聞にのった遺跡たち―」と題し964か所に及ぶ多摩ニュータウン遺跡の中から新聞紙面を飾った遺跡を当時の記事とともに紹介し、改めて遺跡の価値を都民に向けて発信した。さらに都事業と連携し『東京文化財ウィーク』に合わせ、国指定重要文化財(考古資料)「東京都前田耕地遺跡出土品」の中から「尖頭器」などを展示した。
			公開日数	展示ホール、遺跡庭園の通年公開(年200日以上)	× 1		1		遺跡庭園は360日(休館日を除く毎日)、展示ホールは345日(休館日及び展示替え日等を除く)公開した。
	利用者の反応	利用者の満足を得られているか							
			職員の接客対応 (職員の親切さ、説明の分かりやすさ等)	本項目に関する利用者満足度 90%以上	× 2	4			アンケートの結果、一般利用者の満足度では、接遇が98.4%、施設内掲示のわかりやすさが96.4%となっている。また、学校団体見学の満足度では、接遇態度が100%、展示のわかりやすさが100%となるなど、接客対応にかかる満足度は非常に高くなっている。
			設備の快適さ (清潔さ、明るさ、温度設定等)	本項目に関する利用者満足度 90%以上(建物本体に対する事項は除く)	× 1	2			アンケートの結果、一般利用者の満足度では、展示エリアの快適さが96.9%、トイレの清潔さ快適さが94.0%となるなど、築38年の建物ではあるが、快適に過ごせるように対応している。
			苦情等の対応	迅速な対応	× 2		2		苦情はなかったが、利用者の意見・要望については迅速に対応できるものから対応した(例:EV入口表示や展示品の位置など適切な位置に動かすなどの調整をした)。

特記事項	・新型コロナウイルスが2類時には徹底した感染予防対策を行うとともに、5類移行後においても引き続き対応を十分に検討し、都民の触れる機会が多い場所は1時間に1回消毒するといった対策を実施するなど、利用者が安全・快適に利用できる施設管理を行った点は評価できる。 ・令和4年度までは新型コロナウイルス感染症や空調機器故障の影響で実施できなかった「新規事業」について、低年齢向けのイベント「庭園でとれるムクロジを使ったシャボン玉作り」や実物の縄文土器を目の前で観察しながらその特徴を描写する親子向けイベントなど、幅広い年齢層が楽しめる多彩な企画を実施した。また、インターンシップを実施し、自主事業である発掘調査を大学生等に体験してもらう機会を設けるなど、将来の人材育成にも繋がる企画を行ったことは高く評価できる。 ・アンケートや昨年度実績の精査結果を業務改善に生かし、常にサービス向上に努めている。
要改善事項等	・遺構写真等のデジタル化推進や効果的なデジタル展示などについては、引き続き検討を要望する。 ・今後とも、利用者の声や要望を踏まえ、質の高いサービスの提供を期待する。

※管理運営状況の確認結果や各確認項目の評価理由をもとに、総合的かつ具体的に記述してください。

【一次評価結果】

合計点	50	評価	A
-----	----	----	---

標準点	評価基準			
	S	A	B	C
	標準点の1.33倍(小数点以下切上)以上	S-1点以下 標準点の1.25倍(小数点以下切上)以上	A-1点以下 C+1点以上	標準点の0.88倍(小数点以下切捨)以下
40点	54点以上	50点以上	36点以上49点以下	35点以下

【その他】

1. 財務状況

指定管理者の 財務状況	・令和5年4月1日より埋蔵文化財事業は、(公財)東京都スポーツ文化事業団から(公財)東京都教育支援機構に譲渡された。 ・令和5年度の財務業績は、経常収益7,650百万円、経常費用7,642百万円で、経常増減額は8百万円の黒字である。当期経常増減は、事業受贈益226百万円があり、235百万円の黒字である。 ・経常増減額8百万円の事業別の内訳では、公益目的事業1(学校支援業務)が29百万円の黒字、公益目的事業2(埋蔵文化財事業)が△18百万円の赤字で、法人会計が△2百万円の赤字であった。 ・指定管理事業については、予算比では、水道光熱費増や委託費(建物管理等)の増額があったが、一般管理費((公財)東京都教育支援機構運営経費)が減少して、差引0.8百万円の赤字となった。 ・現預金1,914百万円があり、資金繰り上の問題はない。公益財団であり、収支均衡の経営を目指して堅実にやっている。
----------------	---

※財務諸表上から得られた情報や財務分析結果など、客観的な情報を記載してください。

2. 特命要件の継続

特命により指定管理者を選定した施設については、特命要件とした内容及び施設の位置づけなどを再検証するとともに、事業計画等に示された事業の評価対象期間中の達成度合いや効果等の検証を行ってください。

特命要件の 継続	＜特命要件とした内容＞		
	＜特命要件＞ ・考古学の専門知識を持つ多くの学芸員が、専門性を必要とする当施設の指定管理業務を適切に行うことができる。 ・都の埋蔵文化財調査研究を担ってきたことにより蓄積した研究成果や最新の発掘情報を保有しており、当施設の出土品の出土時の情報や考古学的分類・評価等について精通している。 ＜特命要件の継続状況＞ ・出土品の展示や案内表示、縄文庭園の管理等において考古学の専門知識が必要であり、それらの知識を持った多くの学芸員が積極的かつ適切に業務を遂行している。 ・財団設立当時から現在に至る発掘調査における研究成果を蓄積し、発掘調査に関する情報も保有している。そのため出土時の情報も熟知しており、考古学的分類や評価について精通している。		
	埋蔵文化財調査の本部施設として、本施設の設置目的と合致した活用が図られているか	合致	変更あり
	都立埋蔵文化財調査センターの目的を達成するため、考古学の知識と経験を有する学芸研究員を従事させ、埋蔵文化財や史跡の適切な保存及び活用が遂行されているか	適切	適切でない
	公益財団法人東京都教育支援機構が調査した埋蔵文化財資料(特に多摩ニュータウン発掘資料)を中心とした展示・情報発信が行われているか	実施	未実施
	公益財団法人東京都教育支援機構の自主事業と本指定管理者業務が相互に活用され、事業の充実が図られているか	適切	適切でない
	＜理由＞ ・埋蔵文化財調査の本部施設として、設置条例に定める目的に沿った活用が図られており、考古学の専門知識を有する学芸研究職員により埋蔵文化財等の保存活用を適切に実施している。 ・発掘調査成果を活用した展示や工夫を凝らした企画事業を通して、東京都全体の埋蔵文化財保護の情報発信に努めている。 ・指定管理業務と共に自主事業も充実させることにより、施設全体の事業の充実と効率化が図られており、特命要件は継続されている。		